

別紙様式 1

令和7年度 総務委員会 第1回議会報告会

令和8年1月8日

委員長 【神野義孝】

議会報告会実施計画	委員会テーマ	未来へ開けるまちづくり	
	テーマ設定目的	SDGs未来都市として、人口維持、人口増加につながる施策や取組を調査・研究し、魅力あるまちづくりを目指す。	
	対象団体	SDGs未来都市推進協議会 ※昨年からの総括報告	
	調整事項	実施日	令和7年12月12日（金）
		時間	午後1時30分 ~ 午後3時30分
		会場	市役所東館 第1・2委員会室
		出席予定者	総務委員会委員 7名 SDGs未来都市推進協議会のうち市内の委員 24名
	事前準備	役割分担	挨拶・基調報告・講評：神野委員長 司会進行：高木副委員長 グループワーク：全員 受付：林 義浩委員 菅沼 芳徳委員 横山 大委員 案内：勝間田 幹也委員 中島 宏明委員
		資料	基調報告資料：神野義孝委員
備考	行政視察した内容を基調報告。その後、3グループに分かれ、ワークショップ形式で、問題や課題の抽出、また共有して取り組んでいくべきこと等を意見交換する。		

議会報告会実施報告	実施日時 参加者	実施日	令和7年12月12日（金）	
		時間	午後1時30分 ~ 午後3時30分	
		会場	市役所東館第1・2委員会室 ほか	
		当日	総務委員会委員 7名	
		参加者	SDGs未来都市推進協議会委員 18名 計25名	
	実施内容 概要	報告会テーマ 「持続可能な 住み続けられる まちづくり ～人が集い つながる 御殿場市の未来事業～」 「未来へひらけるまちづくり」をテーマに実施した行政視察等について、基調報告した。その後、3グループに分かれ、意見交換し、グループごとに発表した。 提出された意見等は、市に働きかけていくこととし、報告会を終了した。		
	報告書	報告書作成	全委員→委員長取りまとめ	詳細は別紙
		市議会だより	神野委員長	原稿は後日
備考				

別紙様式2

令和7年度 総務委員会 議会報告会実施報告書

開催日時	令和7年12月12日（金） 午後1時30分～	
開催場所	市役所東館第1・2委員会室他	
テーマ	「持続可能な住み続けられるまちづくり ～人が集いつながる御殿場市の未来事業～」	
出席議員	司会者	高木 理文（副委員長）
	報告者	神野 義孝（委員長）
出席議員	Aグループ	高木 理文、菅沼 芳徳
	その他	Bグループ：勝間田 幹也、林 義浩 Cグループ：中島 宏明、横山 大
参加人数	総務委員会委員 7人 SDGs未来都市推進協議会のうち市内の委員 18人 計25人	
実施内容	<p>【未来へ開けるまちづくり】を年間テーマとして、下記のとおり委員会活動の基調報告をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御殿場市的人口減少等の状況 ・本市の未来プロジェクトとして <ul style="list-style-type: none"> ①富士山木のおもちゃ美術館 ②（仮称）富士山の恵み産業パーク ・視察報告として <ul style="list-style-type: none"> ①徳島県立木のおもちゃ美術館 ②サーモンパーク千歳（令和6年実施） その後、3グループに分かれ、市内新施設について下記内容を協議した。 ・持続可能な施設、施設運営 ・市民に愛され、利用される施設 <p>ワークショップ形式にて意見を提出していただき、出された意見を基に、グループごとに意見交換し発表した。</p> <p>提出された意見等は、市に働きかけていくこととし、報告会を終了した。</p>	
主な意見 ・提言等	別紙のまとめ及びアンケート集計結果のとおり。	

以上のとおり、報告します。

令和8年1月8日

御殿場市議会議長 様

総務委員会 委員長 神野 義孝

令和7年度 御殿場市議会総務委員会議会報告会 報告書

1. 日 時 令和7年12月12日（金）13：30～15：30

2. 目 的

SDGs未来都市推進協議会の委員に対し、

「持続可能な住み続けられるまちづくり～人が集い つながる 御殿場の未来事業～」
をテーマに議会報告会を実施し、市政への反映と議会改革の推進を図る。

3. 発表内容等

(1) 御殿場市の人口減少等の状況

(2) 本市の未来プロジェクト

「富士山木のおもちゃ美術館」及び「(仮称) 富士山の恵み産業パーク」

(3) 視察報告

「徳島木のおもちゃ美術館」及び「サーモンパーク千歳」

(4) 考察（今後について）

(5) グループワーク

「富士山木のおもちゃ美術館」、「(仮称) 富士山の恵み産業パーク」について

①持続可能な施設、施設運営 ②市民に愛され、利用される施設

をテーマに意見交換

4. 参加者

委員長 神野義孝

副委員長 高木理文

委員 勝間田幹也 菅沼芳徳 中島宏明

林義浩 横山大

SDGs未来都市推進協議会委員 18名（別紙参照）

5. グループワーク担当者

Aグループ：高木理文、菅沼芳徳 協議会委員：6名

Bグループ：勝間田幹也、林義浩 協議会委員：5名

Cグループ：中島宏明、横山大 協議会委員：5名

6. グループワークの内容

(A グループ)

●持続可能な愛される施設とするために

- 施設運営にあたっては、持続可能なものとするために、収益を確保し収支バランスをとることが不可欠
 - ・運営方式もB T コンセッション混合型を取り入れるなど民間活力を中心にはじめる。
 - ・アウトレットの1000万人の集客力を活かすと共に地元企業とのコラボなど企業の特徴を生かす。
- 「御殿場」の素晴らしい名称を生かす。
 - ・地元農産物コシヒカリの付加価値おにぎりなど他との差別化をする。
 - ・マルシェ、農業体験、ワークショップ、イベントなどの企画を常に行う。
- 市民を巻き込んだ運営をする。
 - ・若者には同年代にうけるアイデア企画を、お年寄りには語り部としてイベント参加をする。



(B グループ)

●持続可能な事業基盤の構築

○収益性と継続的な集客力の確立

- ・認知度向上・リピーター獲得のため継続的PR戦略
- ・「アコチル・ゴールデンウィーク・夏休み」などの繁忙期の入場制限による来館機会の逸失防止、顧客満足度の向上などのため、AI変動料金導入の検討

○独自性と地域ブランドの創出

- ・地域限定商品の開発、研修開発機能の導入

○多様な連携による価値の融合

- ・音楽・アウトドア・他地域との連携による新体験の創出
- ・他地域との共同企画で相乗効果を狙う。

○アクセシビリティの確保

- ・人・物・車・電車など多様な交通手段への対応等

●地域に愛される施設づくり

○質の高い顧客体験の提供

- ・地元食材を活かした食の提供
- ・思い出に残るイベントや写真映えする仕掛け
- ・心温まる接客と人材育成

○「学び」と「創造」の機会創出

- ・遊びを通じた学びの場、教育的価値のある体験の提供

○利便性と快適性を支えるインフラ

- ・使いやすい駐車場やアクセス道路の整備
- ・快適な環境がリピーターを生む「静かなるおもてなし」



(C グループ)

- 「富士山の木のおもちゃ美術館」について
 - ・市民に長く愛され、継続的に利用される施設となるよう、市民のみが利用できる特定日の設定や、学校行事等における施設利用
 - ・来館者が繰り返し訪れたくなる施設とするため、定期的な遊具や展示内容の更新が不可欠であることから、遊具等の更新計画を運営規定に明記
 - ・市民と共に成長していく施設となることを願い、メモリーツリーの設置や来園者による植樹など市民参加型の企画
 - ・木育を推進する拠点施設として、常に環境教育について学ぶことができる場となるよう継続的な取組の推進
- 「富士山の恵み産業パーク」について
 - ・本施設は、「富士山の麓で、水の恵みを未来へつなぐ交流創造拠点」をコンセプトにしていることから、地下水を活用できる構造とする。併せて、水をテーマとしたモニュメントの設置
 - ・地場産品の販売にとどまらず、観光農園を併設し、収穫体験等を行うことができる施設整備
- 「共通事項
 - ・市民生活への交通影響が懸念されることから、周辺道路整備や交通動線の確保、渋滞対策など交通インフラ整備を重点事項として推進
 - ・施設利用者に関するデータの収集及び分析を定期的に行い、その結果を踏まえ、利用者ニーズに即した効果的な施設運営の推進
 - ・首都圏においてまちづくりを推進する市民団体等と連携し、外部の視点を取り入れた意見収集を行うと共に、首都圏から本施設の魅力を発信するPR拠点となるような取り組みを推進



7. 考 察

●報告内容について

- ・プロジェクトは、今後の市政に大きな影響を及ぼすため、施設準備・完成・施設運営等について長い目でプロジェクトの成功のため継続的に検討する。
- ・富士山木のおもちゃ美術館については、木育の象徴的施設であり、木育の普及と施設の持続・発展は相乗関係にある。持続し市民に愛され利用される施設となるよう更なる努力が必要である。
- ・富士山の恵み産業パークは、市民に愛され、人が集い・つながる、持続可能な施設となるよう本意見等を参考に更なる検討が必要である。

●アンケート結果について

- ・報告会のテーマ、運営、資料、時期について当てはまらないという意見はなく、報告会は概ね順調に実施された。
特に、グループワークについては、楽しく活発な意見交換ができたという意見が多かった。
- その他、グループワークの時間、視察の考察についての要望事項については、反省し改善を図る。



別 紙

所属	役職	氏名	
一般社団法人御殿場市観光協会	御殿場 DMO 統括	坂原 康平 様	A
御殿場市金融協会	幹 事	池田 和彦 様	A
矢崎エナジーシステム株式会社 富士工場	品質保証部 部長	柿澤 穎憲 様	A
御殿場総合サービス株式会社	専務取締役	近藤 雅信 様	A
日本 YMCA 同盟 国際青少年センター 東山荘	所 長	森田 義彦 様	A
学校法人 東駿学園御殿場西高等学校	事務局長	田代 学 様	A
御殿場市森林組合	事務局長	山本 剛 様	B
御殿場ガス株式会社 営業グループ	グループリーダー	勝間田 学 様	B
富士伊豆農業協同組合 御殿場営農経済センター	地区営農課長	天野 敏英 様	B
一般社団法人先端空間情報技術 評価支援センター	御担当者	小栗 幹一 様	B
社会福祉法人御殿場市 社会福祉協議会 地域福祉課	副主任	勝又 康介 様	B
御殿場木材協同組合	副理事長	鈴木 由紀夫 様	C
株式会社リコー 環境・エネルギー 事業センター 事業推進室	室 長	中野 雄介 様	C
株式会社時之栖	担当	加藤 弘一朗 様	C
独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立中央青少年交流の家	主幹兼 事業推進係長	大西 亮真 様	C
静岡県立御殿場南高等学校	副校長	小泉 洋幸 様	C
御殿場市商工会	事務局長	田代 元弥 様	基調
一般社団法人御殿場市観光協会	会 長	山内 剛 様	基調

御殿場市議会総務委員会 議会報告会アンケート結果

日 時：令和7年12月12日（金）

午後1時30分～

参加者：15人

テーマは適切であったか

どちらともいえない
7%

よくあてはまる
20%

あてはまる
73%

運営は適切であったか

どちらともいえない
7%

よくあてはまる
40%

あてはまる
53%

全くあてはまらない
あてはまらない
0%

全くあてはまらない
あてはまらない
0%

資料は適切であったか

どちらともいえない
7%

よくあてはまる
33%

あてはまる
60%

全くあてはまらない
あてはまらない
0%

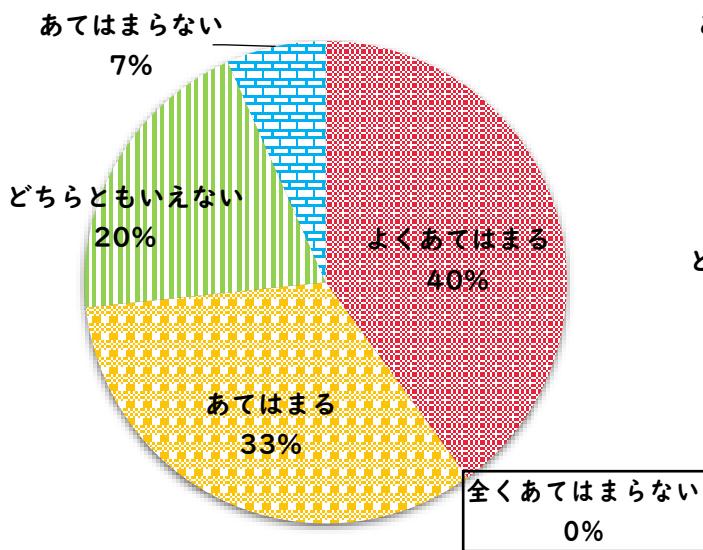
時期(12/12(金)昼間)は適切であったか

どちらともいえない
よくあてはまる
27% 33%

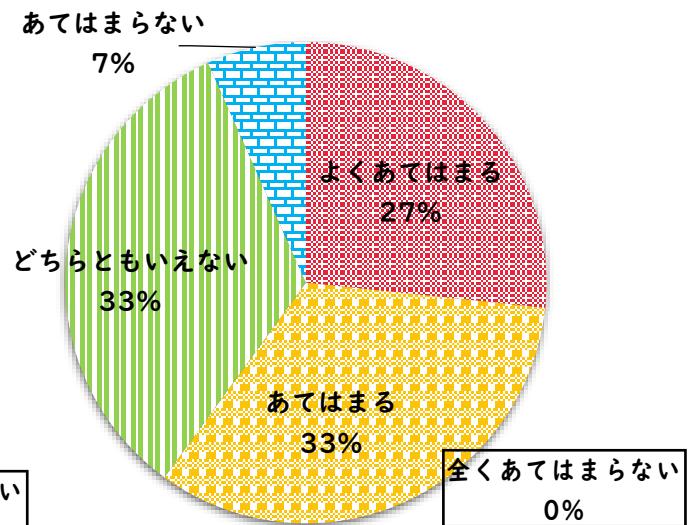
あてはまる
40%

全くあてはまらない
あてはまらない
0%

時間(2時間)は適切であったか



ほかの人に勧めてみたいか



報告会に関して改善した方がよい点・ご要望等

- ・グループワークがあり、飽きずに参加できてよかったです。
- ・他の参加者の意見もとても参考になった。
- ・活発な意見がたくさん出て、良い施設になると思います。
- ・議員の方々が明るく元気なので、ワークショップも盛り上がった。
- ・リコードワークショップのポストイットをAIを使って瞬時にまとめてくれるサービスを開発中なので、サービスが利用できるようになったら使ってください。
- ・視察の考察をもっとまとめられた方がよいと思いました。
- ・グループワークがやや忙しかったので、もう少し時間があればさらに意見交換ができたと思います。
- ・単に報告を頂くだけではなく、私たちの考えをお聞きいただき、双方向の楽しい報告会でした。
- ・ワークショップとして参加者から意見を求めるなら、その旨事前に詳しい案内が欲しい。
- ・当市の進めるSDGsの観点から、資料は両面印刷にすべきだと思います。

市議会へ伝えたいこと

- ・市議会の活動が市民にあまり知られていないような気がするので、PRをもっとした方が良い。
- ・道の駅期待しています。

御殿場市議会 総務委員会 議会報告会



令和7年12月12日(金)御殿場市役所東館2階

御殿場市議会 総務委員会 議会報告会次第

1 開 会

2 基調報告・質疑応答

テーマ「人が集い つながる 御殿場の未来事業」

3 グループワーク、各グループの結果発表

Aグループ 301～303会議室

Bグループ 304～306会議室

Cグループ 第1・2委員会室

4 閉 会

御殿場市議会総務委員会



委員長 神野 義孝



副委員長 高木理文



委員 勝間田 幹也



委員 菅沼 芳徳



委員 中島 宏明



委員 林 義浩



委員 横山 大

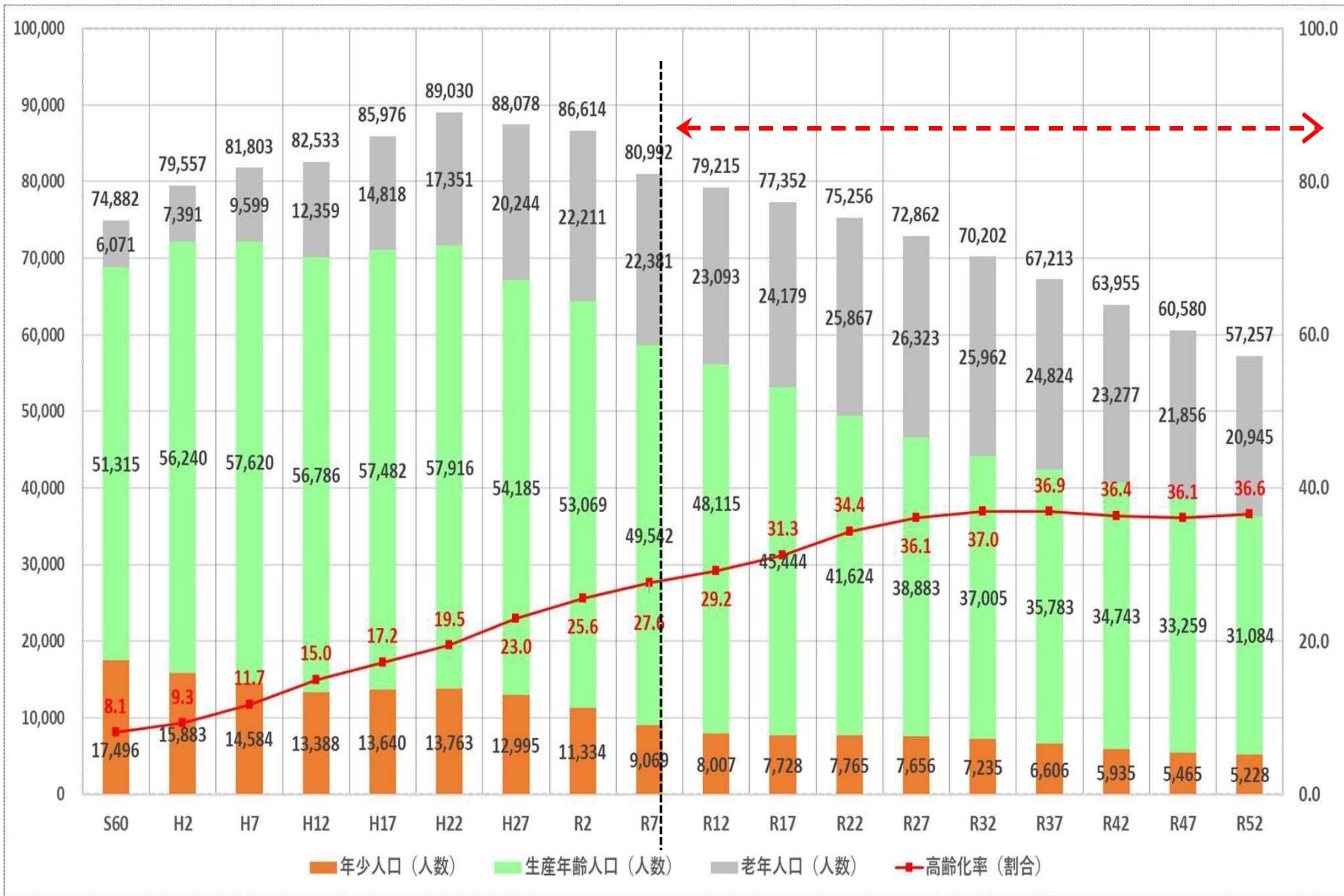
基調報告 発表内容

- 1 御殿場市の人団減少等の状況
- 2 本市の未来プロジェクト
 - (1) 富士山木のおもちゃ美術館
 - (2) (仮称)富士山の恵み産業パーク
- 3 観察報告
 - (1)「徳島県立木のおもちゃ美術館」について
 - (2)「サーモンパーク千歳」について
- 4 考察(今後について)
- 5 グループワークテーマについて

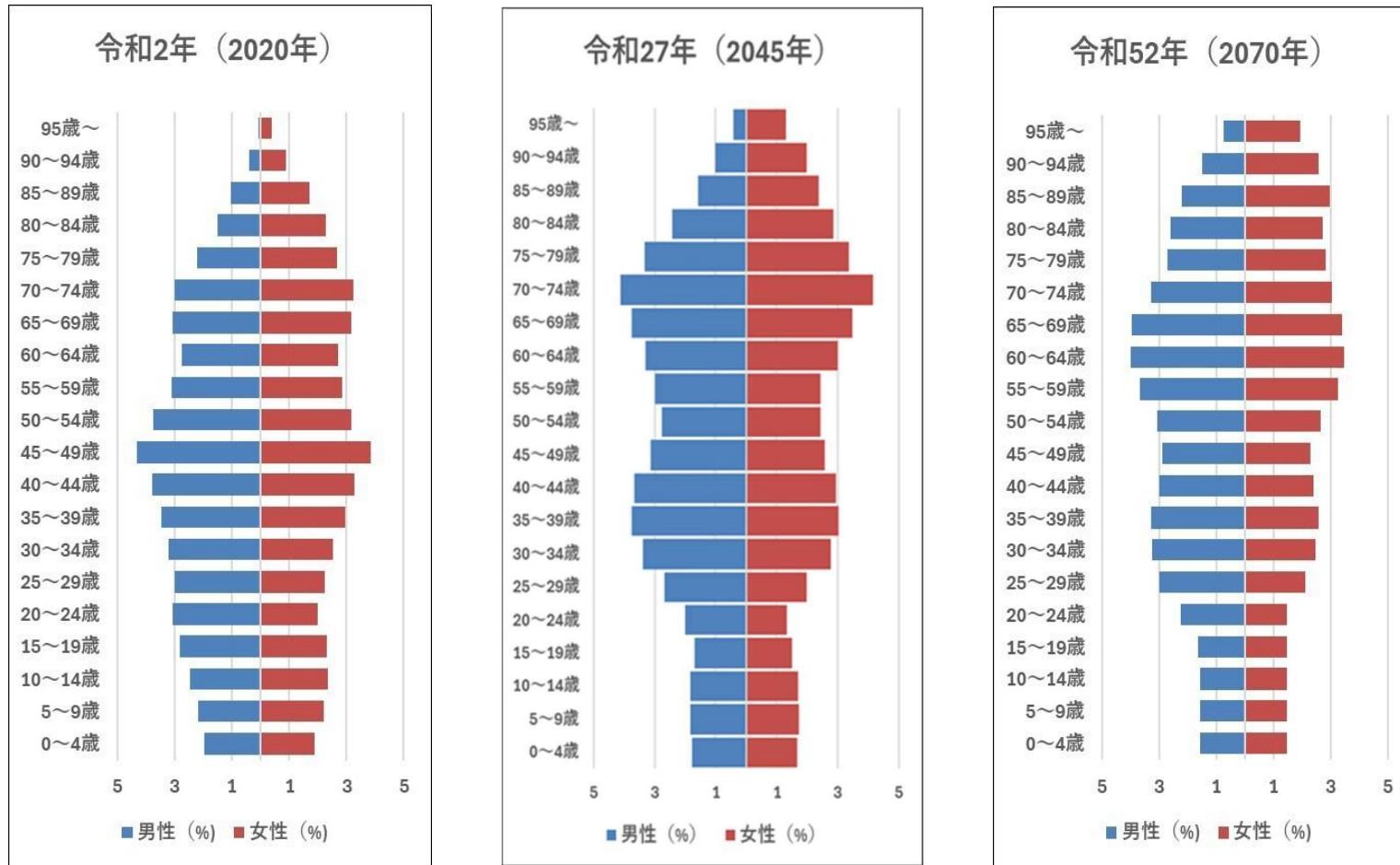
御殿場市の人口減少等の状況

- 1 御殿場市の人口の状況
- 2 御殿場市の観光交流人口・滞留人口

御殿場市の総人口の推移



御殿場市の人口ピラミッドの推移



【出典】2020年までは国勢調査、2025年以降は社人研推計値

御殿場市の観光交流人口・滞留人口

指標及び将来目標地（抜粋）

指標	参考値(平成30年(2018))	基準値※()内は基準年	目標値(令和6年(2024))	目標値(令和7年(2025))
観光交流客数	1,425万人	1,029万人(令和2年)	1,475万人	1,500万人
宿泊客数★	96万人	65万人(令和2年)	109万人	110万人
外国人宿泊客数	92,990人	8,240人(令和2年)	11万人	12万人
一人当たりの旅行消費額★	-	今後調査を実施	基準値に基づき設定	基準値に基づき設定
観光協会HPアクセス数★	-	209,747件(令和2年)	280,000件	300,000件

【出典】 御殿場市 観光戦略プラン（令和4～7年度）

人口減少対策・滞留人口増加のため、本市の魅力あるプロジェクトは課題解決につながります。

富士山木のおもちゃ美術館

◆目的

SDGsの推進による持続可能で御殿場らしい人づくりまちづくりに資する「木育」の一環として、新たな観光拠点となる「木育」の象徴施設を整備する。

◆施設概要

- ・所在地 : 樹空の森内
- ・延床面積 : 1385.8 m²
- ・構造 : 鉄骨造2階建
- ・開館予定 : 令和8年8月8日（土）

◆経過

- ・令和4年度 : 市長施政方針で木育と施設整備を表明
- ・令和5年度 : 基本構想策定、基本設計、ワークショップ
- ・令和6年度 : 基本設計・実施設計
- ・令和7年度 : 本体工事、遊具・什器・玩具製作、運営準備

富士山木のおもちゃ美術館

外観イメージ



富士のもりひろば



おたいないのもり



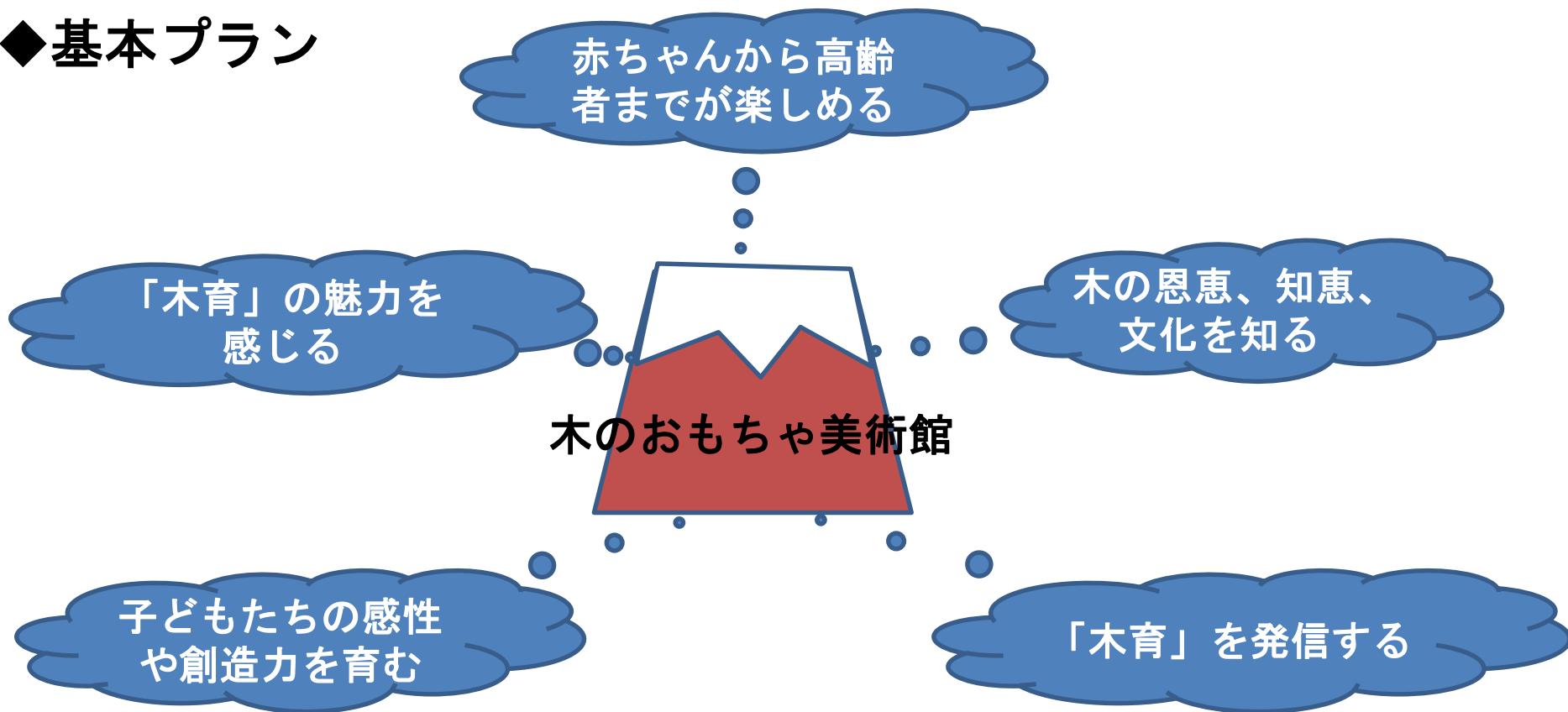
【出典】御殿場市（仮称）富士山木のおもちゃ美術館＜令和6年5月概要版＞

富士山木のおもちゃ美術館

◆基本コンセプト

本市の豊かな森林資源を活かし、乳幼児から高齢者まで多世代に渡り「木育」を推進することによって、木のぬくもりを感じることができ、豊かな暮らしの創造に努め、木と共に成長する。

◆基本プラン



富士山木のおもちゃ美術館

◆運営の概要

○運営体制

(市職員) 館長、事務局長、事務員

(会計年度任用職員) 事務マネージャー、チーフディレクター、ディレクターパートリーダー、パート、(ボランティア) おもちゃ学芸員

○入館料 (案)

1日券: 子供300円(1000円)、一般500円(1400円)

平日パス(半年): 子供900円(3000円)、一般1500円(4200円)

全日パス(半年): 子供1500円(5000円)、一般2500円(7000円)

※子供: 1歳～中学生、平日・全日パスポート利用: 半年間

◆今後のスケジュール

- ・令和8年2月に市議会に上程
- ・4月に運営準備スタート
- ・8月に条例施行、開館

◆目的 (仮称)富士山の恵み産業パーク

主要幹線道路沿いに富士山の恵みを最大限に活かした「御殿場型経済・観光活性化」の拠点となる「道の駅」的な機能を持つ施設を整備し、地域内の回遊を促すこととで、本市の観光振興や地域経済の活性化につなげ、自然災害などへ対応できる防災の要となる施設とする。

◆施設概要

- ・所在地：国道138号線沿いの鮎沢交差点東側地域
- ・開設予定：令和13年度

◆経過

- ・令和4年度：商工会と連携し区代表者等への説明会
- ・令和5年度：市が主体の事業推進を公表、用地調査
- ・令和6年度：基本構想の策定、用地測量
- ・令和7年度：基本計画の策定・造成基本設計を推進
　　パブリックコメント、第1回ワーキングショップ

(仮称) 富士山の恵み産業パーク

全体イメージ



建物と広場のイメージ



所在地（航空写真）



わくわくゾーン（広場）のイメージ



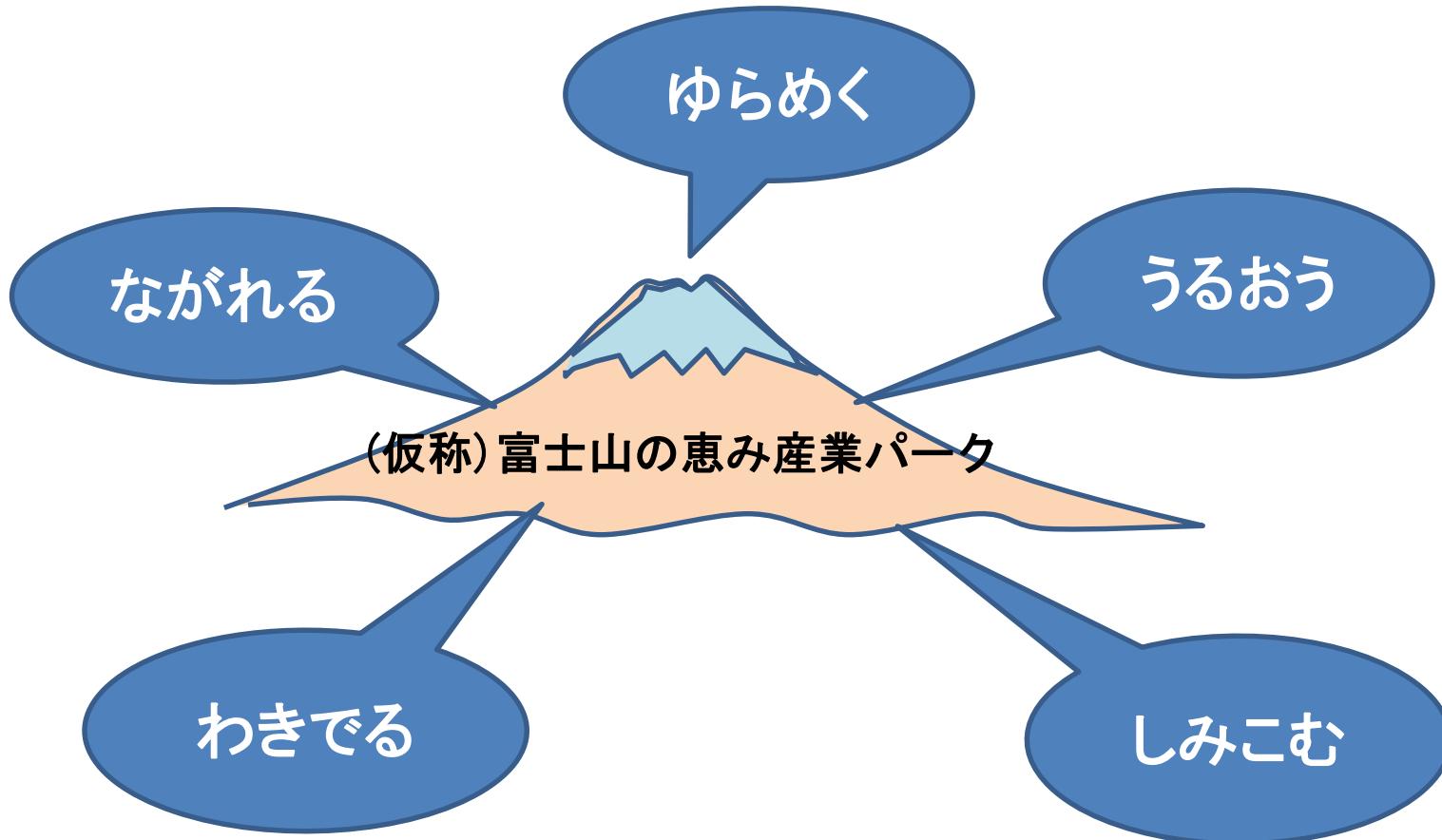
(仮称) 富士山の恵み産業パーク

◆基本コンセプト

富士山の麓で、水のめぐみを未来へつなぐ交流創造拠点

すいろく

「ごてんば水麓プレイス」



(仮称) 富士山の恵み産業パーク

◆今後のスケジュール

- ・令和7年度：第2回ワークショップ（令和8.1）
- ・令和8年度：基本計画の策定・造成実施設計、用地取得
- ・令和9年度：用地取得、造成工事、建物基本設計
- ・令和10年度：造成工事、建物実施設計
- ・令和11年度：建築工事
- ・令和12年度：建築工事、外構工事
- ・令和13年度：備品購入、開業準備、開業（オープン）

「徳島県立木のおもちゃ美術館」視察の目的

木のおもちゃ美術館の先進事例として、「徳島木のおもちゃ美術館」の運営状況や利用状況を確認し、御殿場市で令和8年夏に開館予定の「富士山木のおもちゃ美術館」の運営等の資とする。

徳島県立木のおもちゃ美術館

里山ひろば(眉山、吉野川をイメージ)



遊山箱(三段重ねのお弁当箱)



里山ひろば(棚田をイメージ)



からくり(山の仕事)



徳島県立木のおもちゃ美術館

◆目的：県内の木育関連施設のネットワーク化による木育の取組をさらに発展させるため、赤ちゃんから高齢者まで、全世代が徳島の木をまるごと体感できる、新たな木育の中核拠点として整備する。

◆施設の概要

- ・所在地：徳島県板野町「あすたむらんど徳島」公園内
- ・延床面積：1,568m²（使用木材の99%徳島県産）
- ・構造：鉄骨造2階建（既存建物改修し木質内装化）
- ・開設：令和3年10月、総事業費約6億7,000万円

◆経過

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
施設整備	基本構想	基本設計・実施設計	施行
木のおもちゃ		設計・購入計画	製作・購入
おもちゃ学芸員		プログラム策定	養成

徳島県立木のおもちゃ美術館

◆基本コンセプト

- ①赤ちゃんから高齢者までが楽しめる「集いの空間」
- ②徳島の木をまるごと感じる「体験の空間」
- ③木の恩恵、木の知識、木の文化を知る「学びの空間」
- ④子どもたちの感性・創造力を育む「遊びの空間」
- ⑤徳島を魅せる「にぎわい発信の空間」

徳島県立木のおもちゃ美術館

◆運営の概要

○運営体制

- ・運営方法：指定管理者制度

全体管理は、(株)あわわ、フロア・受付業務は、NPO法人

子育支援ネットワーク徳島、ミュージアムショップ[®]は、おもちゃDEPOT

- ・スタッフ：木育インストラクター（常駐）、おもちゃ学芸員（ボランティア）
登録者数 267 人、活動人数 3～8 人/日

- ・関係機関との連携：「とくしま木づかい県民会議」
参画団体、シルバー大学校等、各施設とのネットワーク

- ・集客戦略：関係団体と連携したHP、SNS等情報発信
「一口館長制度」、「クラウドファンディング」導入

徳島県立木のおもちゃ美術館

◆運営の概要

○入館料

- ・ 1日券 : 一般 800円、小中学生 300円
- ・ 団体割引(20名以上) : 一般 640円、小中学生 240円
- ・ 年間券 : 一般5600円、小中学生2100円

※小学生未満無料、教育課程での利用は申請により無料

◆実績

○来館状況

- ・ 令和6年度 : 149,812人、オープンしてからの年間来場者数は約50万人(R7.3まで)目標の年間10万人は毎年達成

○年間収支(令和6年度)

- ・ 収入 : 約4,200万円
- ・ 支出 : 約6,800万円 (指定管理料)
- ・ 差額 : 約2,600万円 (不足分は森林環境贈与税を充当)

道の駅「サーモンパーク千歳」研修の目的

本市で沿道利便施設の整備が予定されているため、道の駅「サーモンパーク千歳」の運営状況等について視察する。

道の駅「サーモンパーク千歳」

道の駅の施設・駐車場



【出典】サーモンパーク千歳ホームページ

試食コーナー



メロンパンコーナー



いくら醤油 売り場



道の駅入り口付近



道の駅「サーモンパーク千歳」

◆目的

北海道が誇る「サーモン」の魅力や食文化・観光資源を日本・世界へ発信することをメインとした施設とする。

◆施設の概要

- ・所在地 : 北海道千歳市花園
- ・面 積 : 約 24,000m²、駐車場 : 240台
- ・建物構造 : 鉄骨造平屋建、千歳水族館に隣接
- ・開 設 : 平成17年6月
- ・施設設備 : トイレ（男性×13、女性×14、障害者用×2）
地域振興施設（物販施設、コミュニティ施設、加工室、キッズスペース、屋外交流広場、ベビーカー、公衆無線LAN、情報コーナー）
指定緊急避難場所、EV急速充電器
- ・営業時間 : 駐車場を含む屋外施設・公衆トイレ 24時間
飲食店・ショップ 9:00～17:00

道の駅「サーモンパーク千歳」

◆コンセプト

「We love サーモン 千歳に come on！」

◆経営理念

- ・ 食を通じて、お客様の心を動かし、笑顔にする
- ・ 食を通じて、地域（北海道）を動かし、元気にする
- ・ 食を通じて、従業員の生活を動かし、幸せにする

道の駅「サーモンパーク千歳」

◆経過

- ・平成17年：道の駅オープン
- ・平成26年：センターハウスの指定管理者にシダックス大新東ヒューマンサービスを選定
- ・平成27年：千歳水族館と同時期にリニューアルオープン
- ・令和5年4月：指定管理者が株式会社TTCに変更
- ・令和5年8月：リニューアルオープン

◆運営の概要

○運営体制

- ・運営方法：指定管理者制度
指定管理者は株式会社TTC（運営は新設子会社ムーバー）

考察【富士山木のおもちゃ美術館】

- 持続可能な施設運営をする。
- 市民に愛され、利用される施設にする。
- 木育を普及する。

考察【(仮称)富士山の恵み産業パーク】

- 持続可能な施設にする。
- 人が集い、つながる施設にする。
- 市民に愛され、利用される施設にする。

御殿場市議会 総務委員会 議会報告会

ご静聴ありがとうございました！

